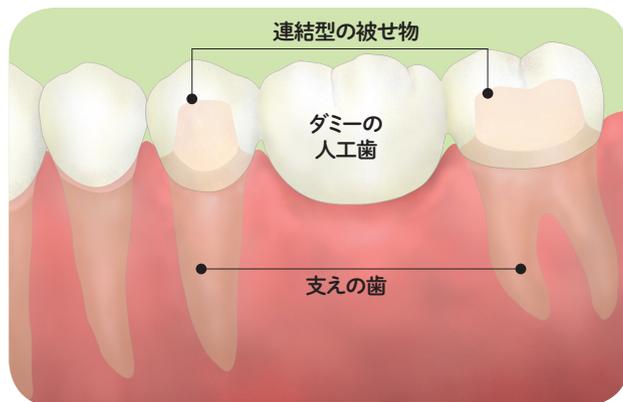


基本的な  
選択肢は3通り!

# 歯を失いはじめたときの治療とは?

## その1 ブリッジ

歯を失った場所にダミーの歯を入れるための連結型の被せ物。両隣の歯を橋(ブリッジ)の橋脚のように支えとして使用。被せ物を両隣の歯に被せてガッチリと固定する。



### メリット

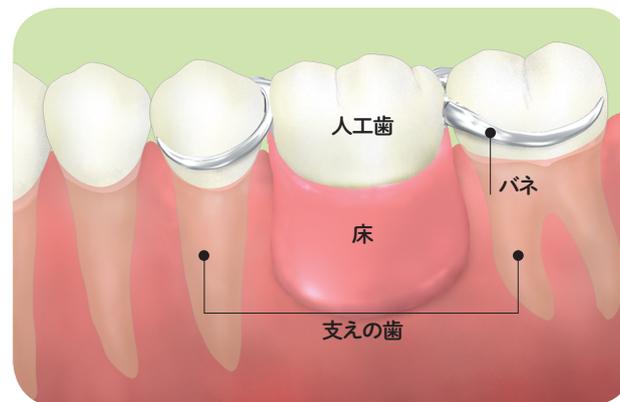
- ガッチリ固定されるので、違和感が少ない。
- 噛む力が落ちない。
- 審美性を重視したブリッジの場合、自然な見た目に回復する。

### デメリット

- 支えの歯をつくるには、歯を削る必要がある。(支えの歯にすでに被せ物が入っている場合は、新たに削る必要はない)
- 支える歯の負担が大きくなるので、支える歯が傷んでしまうことがある。
- 部分入れ歯よりも適応症例を選ぶ。
- 連結型なので汚れがたまりやすく、きれいにお手入れするには慣れが必要。

## その2 部分入れ歯

人工歯がついた床しょうを歯ぐきの土手に乗せる。取り外し式のクラスプと呼ばれるバネを使うタイプや、磁石やインプラントを使って外れにくくするタイプなど、種類はさまざま。



### メリット

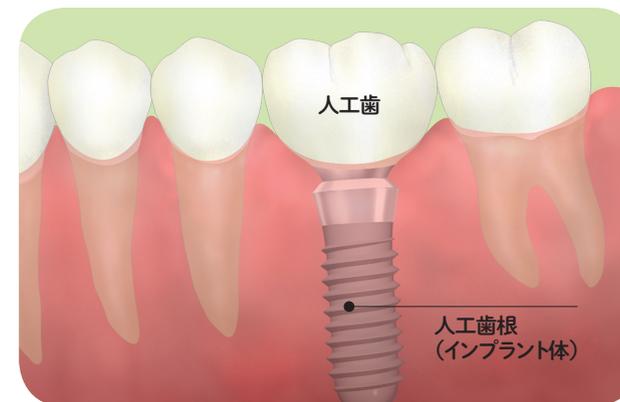
- どの歯を失った場合でも治療ができ、多くの患者さんに適応可能。
- 歯をあまり削らなくてすむ。
- 比較的費用や時間がかからない。
- 取り外し式なのでお手入れがラク。

### デメリット

- 使い慣れるには努力が必要。
- 噛む力が弱くなる。
- 治療後に調整が必要。
- クラスプをかける歯など、固定源になる歯に負担がかかる。
- 安定した部分入れ歯にするために、クラスプをかける固定源の歯の形を削って整えることがある。

## その3 インプラント

チタン製のインプラント体をあごの骨のなかに埋め込み、その上に人工歯を被せる。インプラント体とあごの骨がガッチリと結合するので、自立し、支えの歯が不要。



### メリット

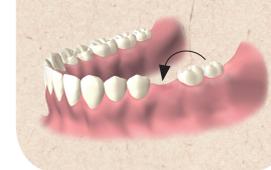
- 自立するので、周りの歯に負担をかけずにすむ。
- 周りの健康な歯を削る必要がない。
- 噛む力が落ちない。
- 違和感がほとんどない。

### デメリット

- 手術が必要。
- 治療費が高価。
- 治療期間が長い場合がある。
- あごの骨が足りない場合、オプションで骨を増やす治療(再生療法)が必要。
- セルフケアの向上と歯科医院でのメインテナンスが必須。

### MEMO 歯の移植

別の部位にある自分の歯を移植する。移植可能な不要な歯が必要で、治療の条件がかなり限られる。

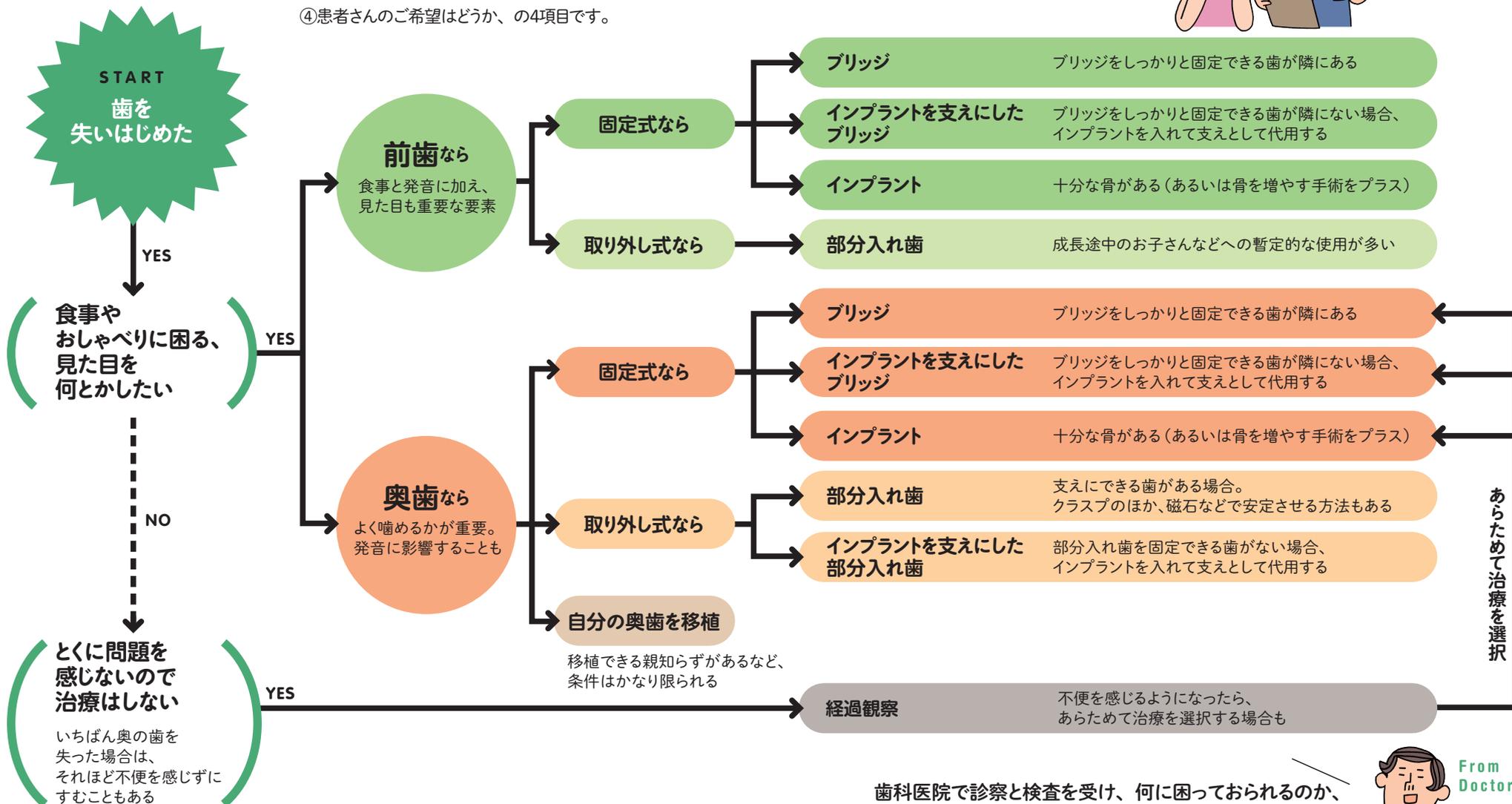


歯を失いはじめたときの  
治療の選択肢

# あなたに合うのはどれ？



治療を選択する際に重要なポイントは、①前歯か、それとも奥歯か、②歯を支える骨がしっかり残っているか、③失った歯の周りの歯はどんな状況か（支えになるしっかりした歯があるか、すでに削って被せてある歯かなど）、④患者さんのご希望はどうか、の4項目です。



歯科医院で診察と検査を受け、何に困っておられるのか、  
どんなご希望があるのかを歯科医師に伝えて、治療法についてよく相談しましょう！

